



1 授業での学び 大いに活きた



表彰状を授与される飛田さん

3月2日(月)、完成したばかりの新校舎で伝達式・表彰式が開催されました。酒井雄一学校長から表彰された2年の飛田美優さん(勝田工高卒)は、情報システムコースで学び、授業・実習でも優秀な成績を修め、更に難関である応用情報技術者試験に合格しました。受賞後、飛田さんは、「この大学校の授業は、実践的な内容であり大いに学びになりました。これからも上の資格を目指したい」と笑顔で答えていました。また、指導された光石則幸専任講師は「真面目に取り組む学生で、いつも成績上位でした。また、面倒見が良く、困っている学生にも優しく教えていました」と振り返っていました。

Q1 応用情報技術者試験(AP)で苦労した点は?

A1 午後問題は文章量が多く、設問に対して何を答えれば良いのか分からないこともあり苦労しました。難問も解いて感覚を掴むまでに時間がかかりました。

Q2 これからの目標は?

A2 より高度な情報技術者試験に挑戦したいです。データベースやネットワークについて学習を続けることで、入社後も活かせる知識・技術を身に付けていきたいです。

Q3 後輩の皆さんへのメッセージは?

A3 APを受験してみて、午前・午後問題の両面で、専門課程の授業で学んだことを活かせる場面が多いと感じました。受験を考える人は、授業で得た知識を活用して是非とも挑戦してみてください。



飛田さんに
インタビュー

2 ここでの学び実践力に!

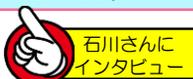


成果を発表する石川さん

2年生の各コースの成果発表が2日(月)に実施されました。「データ解析」を研究した情報セキュリティコースの石川侑典さん(水城高卒)は、「単なる機能だけでなく、利用者が何を求めているのか考えながら作り上げました」と発表していました。

Q 後輩の皆さんへのメッセージは?

A ITは活用すべき分野が沢山あります。やりたい分野を見つけることで、就職活動も楽になると思います。そうすることで将来設計もしやすいと思います。



石川さんに
インタビュー

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事トレ>茨城新聞(2025年12月2日) 人型ロボ開発 政府が資金

研究者公募 30年までに自律型の試作機

●黒澤麻衣さん(佐和高卒)

◇要約: 政府はAIの急発展で人型ロボットの利用が現実的になったと判断し開発支援に乗り出した。家庭などでの普及が現実的になったと判断し、汎用性と自律性を持つ人型ロボットを50年までに開発する目標の修正が必要としている。

◇感想: 政府が開発資金を支援するほど人型ロボが進化していることに驚いた。人型ロボにできることが増え、より生活が便利になると思う。

そのためにも、情報技術者としてITで人々がより快適に過ごせるような技術を身に付けていきたい。

●相田泰我さん(水戸商高卒)

◇感想: 自律的な判断・行動ができる人型ロボット開発に向けて、官民による一千億円の投資計画がある。

AI技術の応用が進むことで、家庭や職場に人型ロボが普及するだろう。将来、ITエンジニアリングの最前線で関わってきたいと思います。

●竹内 結さん(日航高卒)

◇感想: 海外の国に比べて技術力が劣っていることは難題だと思った。

ただ、他国の技術を一方的に使うだけでなく、それを超えるような日本独自の技術開発が生み出せるよう、IT技術の面からも勉強に励みたい。

●新里翔和さん(石岡商高卒)

◇感想: AI技術の急発展により、人型ロボットの利用が現実的になっており驚いた。

政府は新たな目標を設定し、人型ロボットに拘らないとする観点で幅広い開発を目指しており、ITスキルを高めたいと思った。

●照山裕人さん(小瀬高卒)

◇感想: IT技術者として、自律型ロボット開発に関われたら、人手不足に対処できると考える。介護や警備などもそうだが、プログラムの作成やロボットの修理が人手を使わず、自動でできるようになるからだ。AI技術は多方面に影響を与えていると思った。

